



## C O N T E N T S

### 5 追悼 R.W.ラブレス

R.W. LOVELESS,  
The Pioneer of the Modern Custom Knife

### 14 BLADE SHOW & International Cutlery Fair 2010 ブレイドショウ

### 22 New Discovery! レミントン・ボーイスカウト・ナイフ Official Knife "Boy Scout of AMERICA" made by Remington Arms Company, Inc.

### 42 日本のカスタム・ナイフメイカー 日野浦 司の巻 Tsukasa HINOURA ARTISTRY on EDGE

### 74 はたらく刃物 笹野一刀彫

### 80 POHL FORCE ポール・フォース登場!

### 81 カスタム・ナイフメイカー 奈良定守 Mamoru Narasada

### 88 KNIFE IMPRESSION カスタムナイフ編 特別編 安永朋弘作カスタムナイフ

35 鍛冶屋フィールド・ワーク ●かつきせつこ	64 US ナイフ事情 ●ヒロ・ツガ
37 実践的道具考 ●星野欣也	66 アメリカ文化とナイフ ●菊月俊之
38 大工道具のかたち ●土田昇/●柳山実	68 ハンターとハンティングナイフ ●中條高明
52 やっぱり鉄は旨い! ●菊池仁志	70 ハンティング・パーフェクション ●中條高明
54 東京鍛冶の系譜 第14回 ●三原久明	73 TAKE FIVE! ●大東正巳
58 インフォメーション	94 ニュープロダクツ/読者プレゼント
62 速報 第18回関東アウトドアナイフショー	96 バックナンバー

●表紙撮影/長谷川朋之 ●表紙デザイン/馬淵 晃  
●撮影作品/R.W.LOVELESS 作“シュートナイフ(Chute-Knife)”(武蔵野金属工業所所蔵)

\*文中の価格は全て消費税込みの総額表記です







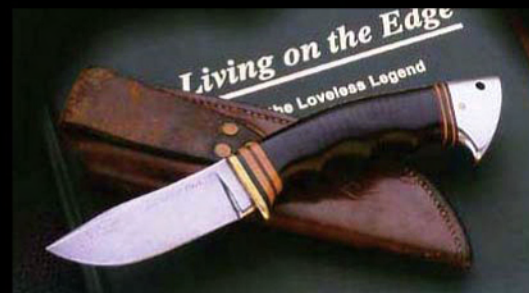
## LAWNDALE SEMI-SKINNER

### ローンデール・セミスキナー

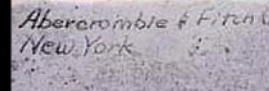
ラブレスは、米西海岸のローンデールに移住して、本格的なプロのナイフメイカーとなった。それまではランドール、スカーゲルの影響も作品の随所に見られたが、次第にオリジナリティの強い作品を創出していく。その後同じカリフォルニア州のリバーサイドに移る頃には、当代唯一のカスタム・ナイフメイカーとして知られるようになる。Photo : Naganori TSUTSUMI



船員時代と推察される時期の写真。



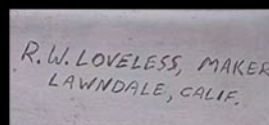
デラウェア・メイドの彫りが施された、ラブレスが19本目に作ったナイフ。ブレイドの裏面にはアバクロンビー&フィッチの名が入られる。



1956年当時の工房での写真。拳銃やライフルに対する造詣も深かった。



4 1/2インチ デラウェアスキナー。東海岸のデラウェアから西海岸のカリフォルニア州ローンデールに移住後の1963年に製作された。



## RWラブレス、その足跡

### 年表1

- 1929年1月2日 ロバート・ウォルドルフ・ラブレス (Robert Waldorf Loveless)、アメリカ合衆国オハイオ州ウォーレンに生まれる。  
\*  
ウォーレンとペンシルバニア州シャロンの間にあった祖父の農園で幼少期を過ごし、祖父からフィッシング、ハンティングなどの基本を学ぶ。
- 1937年 祖父が他界し、ウォーレンの実家に戻る。
- 1941年 日独伊の枢軸国にアメリカ合衆国が宣戦を布告、第二次世界大戦が始まる。軍役に就くことを熱望するが、12歳のラブレスには許されなかった。
- 1943年 ウォーレン近郊の飛行場でアルバイトをしながら飛行機の操縦を覚え、14歳にして単独初飛行を成功させる。
- 1944年 年齢を偽って商船「ヘンネピン (Hennepin) 号」に乗船、甲板作業員として勤務。
- 1945年8月 第二次世界大戦終結。
- 1946年1月2日 17歳の誕生日を迎えた日に、アメリカ合衆国陸軍航空隊 (翌年、空軍に改編) に入隊し、管制塔員として2年間勤務。硫黄島、グアムなどを巡る任務に就く。
- 1947年 軍務による航空管制調査のため初めて来日。10日間ほど滞在する。
- 1948年 オハイオ州デイトン近郊のライト・バターソン基地に赴任し、上等兵に昇進。  
\*  
11月5日に除隊し、画材店で働きながら、シカゴのデザイン研究所「インスティテュート・オブ・デザイン」に入学。デザイン、機能性、素材などの基礎知識を学ぶ。後に中退してオハイオ州のケント大学に入学、主に表現などの言語学を学ぶ。  
\*  
大学を中退して、オイルタンカー、パシフィック・サン号に船員として勤務 (年代は不明)。
- 1953年12月 ランドール・ナイフを求めてニューヨークのアウトドア・ショップ「アバクロンビー&フィッチ」に行くが、ナイフを手に入れることができず、自分で製作することを決意、製作に取りかかる。
- 1954年 生まれて初めて製作したナイフをアバクロンビー&フィッチに持ち込み、フロアマネージャーから3本の注文を受ける。さらに、12ダースが追加発注されるが、6ダースのみを受注。本格的にナイフ作りを始める。  
\*  
パシフィック・サン号の船員を退職し、デラウェア州ウィルミントンのデュボン社 (E.L. du Pont de Nemours and Company) に技術者として勤務。
- 1958年 クリスマス用に大量の発注を受けるが、バイヤーの一方的な都合でキャンセルされる。
- 1959年 肺炎にかかった娘のために、東海岸から妻の実家があるカリフォルニア州モデストに移転。機械工場に勤務、その後1960年代半ばに独立して部品工場を自営。1966年には精密部品を下請け生産する工場で、85人の従業員を抱えるまでに発展する。
- 1967年 初のコラボレーション・ナイフ「ラブレス&パーク」を製作。



の工場や道具は保存されているものの、その技術は失われてしまっているという。展示会へ参加するためドイツを訪れた日野浦さん。その現状を見て、以前から抱いていた「日本の伝統的な技術を如何にして後世に伝えていくか？」という気持ちが一層強まった。

職人の経験や勘に頼るところが大きい伝統技術は、将来、詳細にデータ化されるかもしれないが、現時点では未だ解明されない分野。機械工業では再現できない領域に、ハイクオリティな作品造りの鍵が潜む。

工業製品に押され、鍛冶が作るものは価格が下がるばかり。数をこなすことでやつと生活できる。数が造れなければ廃業するだけという現状。

利器材を使えば鍛接の時間が省ける。プレスで形を抜けば、火造りの時間が省ける。熱処理も連続炉で行えば平均して焼き入れができる。しかし、特別良いものはできていない。

研究を重ねた結果、鍛接、火造り、水焼き入れという、鍛冶ならではの技術に「ハイクオリティな作品造りの秘訣がある」と確信。リスクを織り込み済みで、上質な作品造りを心がけている。

例えばワイン。以前はその年の天候などでブドウの出来具合や、ワインの熟成が左右され、味の出来不出来が著しかった。それが、科学の発達により天候などに左右されることなく、毎年それなりに美味しいワインが造れるようになった。しかしその反面、以前のような「当たり年」と言われる、特別美味しいワインができなくなったのも事実である。

野鍛冶としてのノウハウを活かした仕事をベースにして、クオリティの高いモノを必要としている人に、どれくらい良

い品物が提供できるか？ これこそが日野浦さんが目指した部分なのだ。

### 技術の先に見えるもの

「こんなことはね、誰にだってできる事なんです。私くらいの鍛冶屋はいくらでもいますよ……」

日野浦さんと会話していると、幾度となく出てくる言葉だ。これだけの作品を作りながら、何故ネガティブとも思えることを言うのだろうか、と、これまで考えていたが、今回お話を伺って、実際はこちらが一方的に誤解していた事に気がついた。

もしも鍛冶屋になつていなければ、ジャズ評論家になつていたかもしれないという日野浦さん。ジャズだけでアルバムを1600枚くらい持っているという好き負た。

1950年代のジャズ全盛期に歴史的なミュージシャンが多く輩出された。そのほとんどが貧しい環境の出身で、我流で演奏していた。今は音楽院など有名校出身のアーティストも多く、演奏テクニ

Kei-nata (Uryumon & Kitae-ji)  
**剣ナタ8寸**  
 (雲流紋・黒)(上)/(鍛え地・磨き)(下)

“司”ブランドの専門は剣ナタ。端正な造りで、高いパフォーマンスを発揮し、根強い人気を誇る。とくに8寸の剣ナタとなると刃厚は5~7mmとなり、ズシッと重く手強い感じになるはずが、この新作には驚かされた。あっと思うほど軽量で持ちやすい。それでいて十分なパワーを発揮できる。これなら長時間の作業でも疲れにくいだろう。その秘密は、鍛造時にブレイドの肉厚を絶妙に薄くして、見た目の迫力を失うことなく軽量化に成功した。軽く「く」の字型に折れた形状のハンドルが装備されている。これはオーダー主のアイデアによる物だそう。

全長415mm、ブレイド長260mm、鋼材鍛え地(雲流)ダマスカスに鋼割り込み鍛造(参考品)。ハンドル違いの通常品。



柄がヒルトから2/3位のところでくの字に出がっている。これが握りやすく、力一杯振ってもしっかりホールドできる。



「仕事の数だけ道具がある」はたらく刃物

# 笹野一刀彫

文：かくまつとむ 写真：大橋弘

上杉鷹山に見い出されて以来、

山形を代表する工芸として300年の伝統を誇る笹野一刀彫。

白木を削っただけの素朴な玩具に、力強い気品と美を醸し出すのが、サルキリと呼ばれる巨大で鋭利な刃物だ。

「二刀彫」と呼ぶにふさわしい冴え冴えとした技を、米沢に訪ねた。



上杉鷹山によって世間に広く知られるようになった笹野一刀彫。千年以上の歴史がある生業だ。代表的な玩具が「お鷹ぼっぼ」。鷹よけと、鷹山の事績にあやかった招運の意味がある。

## 三百諸侯一の名君が奨励した冬の農民工芸

巨額の財政赤字を抱えながら、謙信以来の名門意識がいつまでも抜けきらない家来たちに、藩主自ら一汁一菜と木綿の暮らしを貫き通して質素節約の範を示す。

一方で、アイデアに富んだ産業振興策を次々に打ち出して、財政再建のみならず、領民の自立意識の向上にも手腕を発揮した。

寛政の改革を断行した老中・松平定信をして「三百諸侯一の名君」と言わしめたのが、第9代米沢藩主の上杉鷹山（治憲）だ。米沢土産の「お鷹ぼっぼ」は、その上杉鷹山が奨励した民芸品として知られている。

雪国の米沢でもとりわけ雪深い笹野集落の農民は、千年以上の昔から木彫を冬のなりわいとしてきた。仏前に供える彼岸花をかたどった造花や、縁起のよい動物などの彫り物づくりである。

領内に優れた手技のあることを知った鷹山は、農民たちに花市を開くことをすすめ、新年用の供花や縁起物をかたどった玩具を積極的に売らせた。笹野には置賜三十三観音霊場の札所、幸徳院（笹野観音）があり、巡礼土産にもなる。

人集うところには金も寄る。農民自身が加工と販売に乗り出せば手取りも増える。今でいう6次産業化の発想である。鷹山という政治家は、優れた地域活性プランナーでもあった。

鷹は昔から瑞鳥とされ、眼光の鋭さから魔を退散させるイメージも重ねられてきた。地道な努力で碌高を増やした名君・鷹山が雅号に選んだ鳥ということもあり、お鷹ぼっぼは金運を上げる縁起土産として人気を博す。

現代でいえば芸能界出身の知事のキャラクター商品がヒットするような現象だろうが、格が違う。こちらは300年の人気だ。「ぼっぼ」というのはアイヌ語で、

玩具の意味だそうです。木を細く削る花づくりも、アイヌが儀式に使うイナウによく似ている。だから、技術的な源流はアイヌ文化なのかもしれないね」

こう語るのは、長い歴史を誇る笹野一刀彫、また、今も15人ほどいる職人の中で、最初にして唯一の専業職人であるという戸田寒風さん（61歳）だ。

## アイヌ文化との関わりを連想させるサルキリ

笹野一刀彫を見い出して光を当てたのが上杉鷹山なら、寒風さんはその技術を伝え広めて観光に結びつけた現代の功労者である。

市内の上杉神社には、鷹山の徳にあやかろうという人たちが毎年たくさんやってくる。だが、そこには長い間、鷹山が育てた一刀彫の技を披露する場がなかった。

若き日の寒風さんは、役場や上杉神社に掛け合って観光案内所を作り、実演の台間に自らガリ版で刷った観光資料を配った。

米沢は、同じく鷹山が奨励した織物でも知られている。寒風さんは呉服関係者とも提携し、商談の合間に笹野一刀彫の見学を組み込んだ。アメリカやヨーロッパ、ブラジルなど海外でも実演し、その



まさに一刀で彫りあげるための専用刃物「サルキリ」。一刀彫の歴史を含め、源流はアイヌ文化ではないかと考えられているが、断定するにはまだ材料不足。



NEXT  
**ナイフマガジン**2011年2月号は  
 2010年12月28日発売です

# ナイフマガジン

# KNIFE

2010. December No.145  
 発行人 今井今朝春  
 編集人 稲葉 博昭  
 発行所 株式会社ワールドフォトプレス  
 〒164-8551 東京都中野区中野3-39-2  
 ☎03-5385-8111 (代表)  
 ☎03-5385-5648 (編集部直通)  
 印刷所 大日本印刷株式会社  
 DTP 有限会社ベイス/株式会社三協美術  
 発行 2010年12月号 第25巻 第6号  
 (通巻147号)  
 定価 1050円 (本体価格1000円)  
 (送料290円)  
 ©WORLD PHOTO PRESS 2010  
 本誌掲載の写真、イラストおよび記事の無断転載を禁じます。

ワールドフォトプレス ホームページ  
<http://www.monomagazine.com>

BACK NUMBER



**2008年12月号 定価1050円**  
 ●カスタムメイカー 鹿山利明●ブ  
 ロ口伝テック③福田正孝●鉄  
 大全 (保存版) ●デントン親子の  
 ラブレスコレクション (後編) ●重  
 野守●大工道具のかたち●小刀吉  
 野●はたらく刃物 漆掻き、他



**2009年2月号 定価1050円**  
 ●カスタムメイカー 川村龍市●リ  
 ヴック・ヒンダラー●JKGナイフシ  
 ー●肥後守●アトランタ・ブレイド  
 ショウ●刃物の研ぎとメンテナンス  
 ●福田正孝&島田英承合作ナイフ  
 ●はたらく刃物 鋸鉄、他



**2009年4月号 定価1050円**  
 ●肥後守大全 (加藤清志他作のカ  
 スタム肥後守/肥後守の選び方/  
 肥後守を使う小学校/メイキング)  
 ●銃籠シースを作る●KNIFE Impre  
 sionスパイラルコ●ZTナイフス●  
 カスタムメイカー 坂内好夫、他



**2009年6月号 定価1050円**  
 ●小田久山、その半生と作品●カ  
 スタム・ストライダー●カスタムメ  
 イカー 橋本庄市●現代の鍛造ナイ  
 フ●Impression ガーバー●鉄刀  
 法改正について (告知) ●はたらく  
 刃物 根曲がり竹細工、他



**2009年8月号 定価1050円**  
 ●カスタムメイカー 二部幸夫●  
 2009年度版 鉄大全●デントン親  
 子のラブレス・ハンター・コレク  
 ション●Impression MOKIクロノス&  
 アマランス●倉本俊文●鍛造刃物  
 の世界●はたらく刃物 挽き物、他



**2009年10月号 定価1050円**  
 ●SPYDERCOの魅力●アトランタ・  
 ブレイドショウ2009●ウィリアム  
 W. スケイゲル●カスタムメイカー  
 田邊一典●Impression SOG●クザ  
 ン・ブレイドショー●はたらく刃物  
 特別編 当世指先事情、他



**2009年12月号 定価1050円**  
 ●カスタムメイカー 松田菊男●ス  
 ケイゲル・コレクション2●SPY  
 DERCOの魅力 Part2●銀座ナイフ  
 ショー●千代鶴是秀と過去の名工  
 たち●Impression MCUSTA●日本  
 鍛冶紀行 関東牛刀、他



**2010年2月号 定価1050円**  
 ●2010年度版 研ぎ大全●知られ  
 ざる小刀の魅力●カスタムメイカー  
 山本徹●チャールズ・ワイス●JKG  
 ナイフショー●TAKE FIVE! シベ  
 リアナイフ●はたらく刃物特別編  
 鍛冶中の先掛け、他



**2010年4月号 定価1050円**  
 ●2010年度版 包丁大全●カスタ  
 ムメイカー 武藤美彦●福田正孝  
 &島田英承作「Eagle Wing」●オ  
 リジナルシースを作ってみよう●伊  
 原賢治●東京鍛冶 板金鉄●日本  
 鍛冶紀行 広瀬重光金物店、他



**2010年6月号 定価1050円**  
 ●根本朋之●エレン・ハリス●安永  
 朋弘●JKG鍛造ナイフ部会●東京  
 フォールディングナイフショー●マ  
 ーブル「セーフティ・ハンティング  
 ナイフ」●東京鍛冶 包丁●はた  
 らく刃物 井川メンバ、他



**2010年8月号 定価1050円**  
 ●浜田智成●ジェフ・ホール●今  
 映治郎●JKMカスタムナイフシ  
 ー●ソルバンク・ナイフショウ●リ  
 ヴック・ヒンダラー●土田昇×甲野善紀  
 対談●東京鍛冶 諸道具●日本  
 鍛冶紀行 片桐鍛冶/深澤砥石、他



**2010年10月号 定価1050円**  
 ●福田正孝●平山晴美 新作ナイフ  
 ●ビル・ループル●黒澤次夫●レ  
 スキューナイフカタログ●銀座ナイ  
 フショー●ナイフアート・ドット・コ  
 ム●東京鍛冶 丸藏ち包丁●日本  
 鍛冶紀行 深澤やす店、他

バックナンバー購入方法

バックナンバーのご注文は、最寄りの書店  
 にお申し込みください。郵送を希望される  
 方は代金と送料を郵便為替にてお申し込  
 みください。郵便局に備え付けの払い込み  
 票に口座番号00190-7-582639、加入者名(株)ワ  
 ルドフォトプレスを記入し、通信欄にバック  
 ナンバーの誌名、月号、冊数をお忘れな  
 く明記してください。ナイフマガジンの送  
 料は1冊290円、2冊以上は販売部に直接お  
 電話でお問い合わせください。お急ぎの場  
 合は宅急便の代金引換をご利用できます。

お申し込みにはインターネット<http://www.monomagazine.com/>もご利用できます。  
 なお、2005年12月号までは売り切れです。  
 何とぞご了承ください。

●〒164-8551  
 東京都中野区中野3-39-2  
 ワールドフォトプレス販売部  
 ☎03-5385-5701

ナイフマガジン定期購読のご案内

毎号、送料無料で確実にお届けします!

お近くに書店のない方、毎号確実に入手したい方は、便利な定期購読をご利用ください。

■購読料金  
 1年間 (6冊) **6,300** 円(税込)



- 新規定期購読のお申込方法
- ①お電話で (新規申込み専用ダイヤル)  
 フリーダイヤル 富士山 富士山  
 ☎0120-223-223 (年中無休24時間営業)
  - ②PC サイトから  
<http://fujisan.co.jp/knife-magazine>
  - ③携帯電話から  
<http://223223.jp/m/knife-magazine>
  - ④QRコードから  
 上記QRコードからアクセスしてください。

■お問合わせ  
 雑誌のオンライン書店 / \ Fujisan.co.jp  
 カスタマーサポート  
 PC : <http://fujisan.co.jp/cs> または  
 MAIL : [cs@fujisan.co.jp](mailto:cs@fujisan.co.jp) にお問合せください。

- 注意事項
- お申込みは / \ Fujisan.co.jp とのご契約となり記載の利用規約に準じます。
  - お支払いのタイミングによってはご希望の開始号が後ろにずれ場合がございます。
  - お届けは発売日前後の到着を予定しておりますが、配送事情により遅れる場合がございます。
  - 定期購読は原則として途中解約はできませんので予めご了承ください。

FROM EDITORS 【編集後記】

●ラブレスが亡くなった。彼のナイフ界における功績は計り知れないものがあり、ここで触れるまでも無いが、なんぞ小誌も含め日本ナイフ界に関しては、彼がいなければナイフ文化の確立も無かつたはずである。結果、彼のナイフの高騰というのが米国を筆頭に生まれラブレスナイフの賛否を呼ぶのだが、今振り返れば全てが懐かしと思える。ラブレス自身は優れたビジネスマンでもあったと言うが、決して高額転売やコレクションを望みださなかったように、最後の最後まで「ナイフは道具」というポリシーを貫き、本人価格は決して高くは無かつた。また、道具であったからこそ初期の多くは使い倒され、現存数が少ないというのはメイカー-真利に尽きるのではないだろうか。(稲葉)

●ラブレス逝去で、改めてその作品や、過去に撮影されたナイフ写真を見直して、存在感に圧倒された。歴史と実用性を踏まえた上での合理性、その上で生まれる美しさ。すべてが飛び出しすぎることなく、バランスが取れている。若い頃から順に、本年2月に撮影された最後のポートレートまでを見ると、一貫して自らのスタイルを保ち、自分の方で立ててきたラブレスの姿が端的に伝わってくる。多くの人に影響を与えた人生は、才能だけでなく、努力を重ねて築いたものだったのだろう。ご冥福を祈りたい。次号の小誌では、そんなラブレスの、日本における足跡、そして国内外のコレクター、ディーラー-所有の貴重な作品の紹介などの切り口で改めて記事を書き予定。(服部)